

境界地域に生息する動物と感染症

— ツシマヤマネコの研究最前線 —

この地で生きる、
これまでも、
これから——

對馬

日時：2026年10月15日(木) 13時15分—16時00分
場所：山口大学吉田キャンパス大学会館
(予約不要・当日先着順)

「境界地域に生息する動物と感染症」

～ツシマヤマネコ研究の最前線～

＜講演者＞

村山美穂 先生（京都大学野生動物研究センター 教授）

『ゲノムと細胞を活用したツシマヤマネコ保全の取組』

西垣一男 先生（山口大学共同獣医学部 教授）

『その『うつる』が絶滅を招く？ ペットとツシマヤマネコの
交差点で見える感染症伝播のリスク』

皆藤琢磨 先生（対馬野生生物保護センター 上席自然保護官）

『ツシマヤマネコを守る公務員のお仕事』

＜趣旨＞

山口県は本州最西端に位置し、関門海峡を挟む福岡県との県境（ボーダー）や、日本海・瀬戸内海に面する歴史的・地理的な境界地域として知られています。近年問題となっている人獣共通感染症のほとんどは野生動物由来と考えられ、様々な病原体が中国から朝鮮半島を經由し我が国に侵入することが危惧されています。その中継点と考えられるのが対馬です。

対馬、福岡、山口に生息する動物の特徴およびその動物が保有する微生物の情報を解析することは、新たな人獣共通感染症の出現予測と制御に貢献するものと期待されます。そこで本シンポジウムでは対馬に生息するツシマヤマネコに焦点を当て、その研究の最前線を紹介します。

- ・どなたでもご参加いただけます
- ・オンサイト限定、無料
- ・事前予約なし、当日先着順

本シンポジウムに関するお問い合わせ先：

One Welfare国際研究センター 清水 隆 TEL 083-933-5895

山口大学  ne Welfare国際研究センター
Webサイトはこちらです⇒

